

舞踊コンクール採点集計方法の研究 — 偏差値を用いて —

若松美黄・湯川治敏

A study on compilation in modern dance & ballet competitions ~based on deviation~

WAKAMATSU Miki & YUKAWA Harutoshi

The purpose of this study is to establish a method to decide ranking in modern dance & ballet competitions. The first part of this paper discusses how to compile the judge's points. The second part examines the method of quick computing.

In making a ranking, it is necessary to arrange averages and standard deviations under the same conditions. Therefore, it is recommended that conversion of the original totals be made based on a deviation (T-scores) before done by a computer.

The Saitama all Japan modern dance and ballet competition (abbreviated as S-con) uses the deviation method and has next three steps in the computing of competition scores in order to avoid bias of a single judge.

1. Deductions of the two poles of maximum and minimum scores from the sum of the judges' points.
2. Abstention by a judge who has an interest in the presented work.
3. The five Saitama Judges points are combined and given the weight of two judges scores. Whereas, the seven judges from outside Saitama are each given full weight.

The second stage makes clear the method of complicated calculations, using a computer with the computer software of 'Excel', which has been completed within ten minutes after putting the raw data. It is operated by functions and a buried method.

This results of this ranking system are well received by participants and thought to be fair. Today, S-con has become the largest scale competition in the world. This year, attracting the public eye, thus 1855 works were competed with (see Fig. 1).

Key word : Dance competition, Compiling by deviation, Decide ranking method

I 序論

1 舞踊コンクールの増加

我が国で最も権威のある洋舞（バレエ・モダンダンス）のコンクールは、1939年創設の東京新聞主催・全国舞踊コンクール⁵⁾（東コンと略）である。これを範として、1968年、埼玉全国舞踊コンクール（埼コンと略）が創設され、さらに1980年

以後、19件もの舞踊コンクールが見られ、話題となった³⁾。しかも、多様で、国際的なものも創立された。

舞踊コンクールの増加は、1) 主催経費が安いこと、2) 舞踊教習生が増加していること、3) 参加メリットがあること、によるものと思われる。

1) 主催者の経費は、特に舞台経費が少ない。

照明が簡単で、人件費も少なく、プロやチラシに費用がかからず、しかも、助成、広告収入等見込める。日本の舞踊コンクールは、年間、延べ80日の実施日、応募作品6千組、8千万円^{注1)}の経費と推定される。出演参加費を1万円としても6千万円の収入、参加作品が多いか、助成を受けるかすれば、収益ともなる。例えば、埼コンでは、ここ10年、収益となっている。

2) 洋舞教習生の増加もみられる。公演数は、この20年間、増加していないが¹¹⁾、教習生は、増加し、15万人の洋舞教習生が推定されている⁸⁾。

3) 参加メリットは、第一に、コンクール参加者の負担が少ないことがあげられる。専門舞踊家は、舞台活動が赤字となるので、通常、公演では個人負担する。年平均9回の舞台で86万円との報告¹⁾もある。洋舞教習生(アマチュア)は、さらに単価の負担が多いものと推定される。しかし、舞踊コンクール参加料は、2万円以内、参加者が、仮に、個人的に振付料、指導料、衣装、音楽費等を支払っても推定5万円程度で、専門家の舞台活動費より負担が少なくなる。

第二のメリットは、受賞すると、個人名が新聞紙上に記載されたり、コンクールによっては、外国のコンクールに参加する資格を得る他、プロと

してデビューも可能である。このような背景が、出演者のコンクール増に反映するものと思われる。

2 採点集計法に疑問

1994年度以来、参加作品が最大なのは、埼コンで、1995年の8月は、1855作品⁴⁾に達した。これは、創立以来57年、52回のコンクール歴を持つ東コン全部門の参加作品総数を、392作品、上回ったものである(図1)。世界で、このように多量なバレエとモダンダンス参加作品が審査される舞踊コンクールはない⁷⁾。

この様な参加増の一側面に、埼コンの独特な採点集計があげられる。埼コンでは、公平な採点を目指し、種々の新機軸を打ち出してきた。現在、偏差値を基本とした、採点集計を行い、参加者の評価を受けているように思われる。

コンクール参加者は、受賞が目的であり、その審査は公平かつ妥当なものでなくてはならない。60年代には、ある審査員が支持する門下生の作品を最高点、そのライバルを最低点に付けたことがあった。支持する作品を最高点とすることはともあれ、テクニック審査で、ライバルとなる作品を、最低点とすることは、妥当な印象とは言えない。

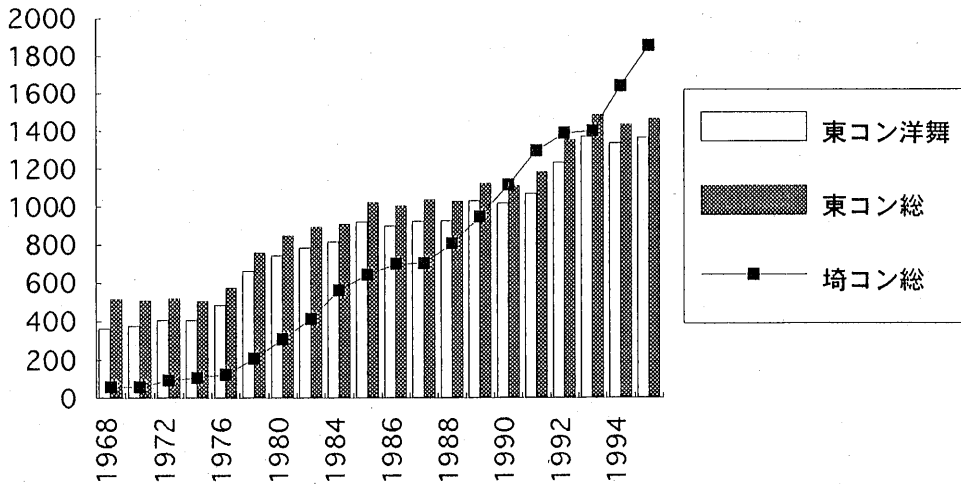


Figure 1 The number of participants in two competitions
A comparison between the Tokyo and the Saitama competition

Table 1 An example on ranking differences
between low data, the deviation and the deduction points of max. and min.

1-1. 単純集計と上下カットの差												総得点	加工点
	J1	J2	J3	J4	J5	J6	J7	J8	J9	J10			
W1	90	91	89	88	92	95	87	86	99	87	904	719	
W2	89	90	88	87	91	94	86	80	96	95	896	720	
W3	86	88	84	85	88	93	84	79	95	86	868	694	
W4	84	85	87	84	82	91	83	78	92	85	851	681	
W5	86	79	80	86	89	90	82	75	93	80	840	672	
W6	84	78	79	82	87	88	80	74	90	79	821	657	
W7	88	77	82	87	84	80	75	76	90	75	814	649	
W8	80	82	75	80	85	84	79	70	85	70	790	635	
W9	78	89	80	75	75	87	77	75	87	78	801	637	
W10	75	84	84	70	70	80	80	76	85	80	784	629	
総計	840	843	828	824	843	882	813	769	912	815	8369	6693	

1-2. 偏差値と上下カットの差												総得点	加工点
	J1	J2	J3	J4	J5	J6	J7	J8	J9	J10			
W1	62	63	64	60	61	62	65	71	67	58	633	504	
W2	60	61	62	58	60	61	62	57	60	69	610	484	
W3	54	57	53	54	55	59	57	55	58	56	558	446	
W4	50	51	59	53	47	55	54	53	52	55	529	423	
W5	54	40	44	56	57	53	52	46	54	48	504	407	
W6	50	38	41	49	54	50	47	43	47	46	465	373	
W7	58	36	48	58	50	35	34	48	47	41	455	363	
W8	42	46	32	46	51	42	44	34	37	34	408	325	
W9	38	59	44	37	37	48	39	46	41	45	434	338	
W10	32	49	53	29	30	35	47	48	37	48	408	326	
総計	500	500	500	500	500	500	500	500	500	500	5000	3989	

J10審査員のみがW2を一位、他全員はW1を一位にしている。しかし、上下カットで、W2が一位となる。

下線部ah 最高点。J1~J10：審査員。W1~W10：参加作品。加工点は、この場合上下カット

しかも、舞踊界において、審査員は、参加者の流派と無縁ではなく、個人的利害問題が混在している。この経過を踏まえて、一人の採点で、他の全審査員の意向が否定させないように、上下カット法が生まれた。確かに、特定審査員が、支持する門下生作品に100点、ライバル作品を0点とする事例には、有効であった。以来、現在まで、主要な舞踊コンクールは、上下カットで、単純集計を行っている。

しかし、筆者らは、上下カット方式でも、表1の場合、10人の審査員中9人が1位に推したA作品は、一人の審査員が1位としたB作品より、点数が低くなることを見出した。この場合、単純集計では、Aが高いが、上下カットでBが高くなる。多数決原則の常識を基準とすれば、順位が逆転するのである。

このような採点方法を考えるべき時期に来ているのでないだろうか。

3 研究目的

筆者らは、1990年以来、埼コンの採点集計を担当し、従来の単純集計・上下カットに、上記の問題がある以上、行うべきではないと考え、協会側の理解を求めた。より良い集計として偏差値が考えられるが、内容の理解とともに、方法の現実性がなければならない。本稿では、埼コンが、偏差値に基づく採点集計方法を行うまでの経過とその実施状況を明らかにする。

4 研究の意義

採点集計の改善は、舞踊界の合理化、近代化につながる側面を有する。単純集計で起こり得る、アン・フェアな審査員の戦略を封じることが出来れば、閉鎖的・保守的傾向を持つ舞踊コンクールも1歩前進する。偏差値を使用すれば、少なくとも、すべての審査員の平均値と標準偏差が均等化し、審査員の比重が同量となる。その結果の順位がより妥当性を増し、参加者、観客にとって、分かりやすくなるものと思われる。

また、簡単に偏差値を打ち出せることが普及すれば、採点を伴う多くの審査会に活用出来るものと思われる。

5 研究の独自性

学術論文は、現に生きている事態・問題を取り

上げることが少ない。舞踊コンクールに関しても、日本芸能にはコンクールという観念がない(郡司)²⁾という指摘、技法研究として出の研究(若松)⁹⁻¹⁰⁾、作品比較(頭川ら)¹²⁻¹³⁾等を数える程度である。

舞踊コンクールに欠かせない採点集計に関する論文は、かつて無く、本稿が初出である。また、舞踊コンクール理解の上にも実践との結合と試みた独自の研究と思われる。

6 研究方法

より良い採点集計をめぐり、偏差値を受け入れるまでの主催者側の反応と、実際の運用方法、その問題点を明らかにしなくてはならない。以下の項目を立てる。

- 1) 主催者が偏差値を受け入れるまで。
- 2) 偏差値集計の経費について。
- 3) 採点集計方法の実際。
- 4) 今後の問題点。

II 本論

1 主催者が偏差値を受け入れるまで

- 1) 日本における舞踊コンクールの土壌
- (1) 保守的性格

人類は、ギリシア時代から、公演芸術を審査してきた。公演芸術は、観客・世論の反映が見られる。その是非は、地母信仰をともにする共同体、幾重もの階層社会、時代主潮、民族主潮で類型を持っている。つまり、これらの類型は、多くの場合、保守的な性格にならざるを得ないだろう。

一方、コンクールは、賞と言う形で、権力の側がある価値を付与する。賞を授与する者は、国家の地域の権威の代表者であり、所轄大臣、知事、天皇一族などが名を連ねる。近代日本において、芸術は国家主義と決別し得なかった。特に、舞踊の場合、家元性が残存し、権威的で、保守的な側面は否定し難い。この土壌があるため、三つの問題が起こる。

第一の問題は、賞、あるいは順位序列の決定が、流派のバランスや、金品の授受を含む付け届けなどの舞踊界の悪しき風習にまみれ、公平なコンクールを阻害する一面を持つことである。

第二は、権威が、審査員を高齢化させ、先鋭的な芸術運動は、遅れがちとなる。これに帯同するのは、オリジナルな独創性より、二番煎じ、アダ

プレーションが評価される側面を持つ傾向である。

第三の問題は、採点集計の数的合理性は、舞踊家に敬遠されがちなことである。本来の権威は、権威を支える精密な運用がある。しかし、祝儀性を持つ舞踊の曖昧さと数的合理性は、その調和が難しい。

(2) 祝儀性

舞踊界には、流派間の派閥があり、しきたりや、先輩への挨拶等の固有のマナーがある。ご祝儀を送るのも、受けるのも、風習や流派の人々との兼ね合いで、外部からは不透明である。洋舞においても、事情はそれほど変わらない。祝儀性とは、舞踊界の風習全体を指すときにも使用され、一つの人間関係の尺度とも理解されている。

舞踊コンクールは、ある時代、新聞社等の主催により、舞踊の近代化・合理化の促進としての側面を持って来た。しかし、審査員は、舞踊界の実力者であるため、完全には祝儀性を払拭し難く、その採点や、点数に対する認識は、透明なものとは言えない。従って、その吟味が数的処理に進まなかったのである。一方、コンピュータの導入は、1990年には行われ、日本バレエ協会では、審査員がネットワーク端末に打ち込み集計した。1993年から、東コンでも、ソフトウェアの一太郎を集計に使用した。しかし、偏差値採用は、いまだに埼コンしかない。

(3) 選考の類型

舞踊界には、各種の賞が存在し、その選考の形態は、以下の三種10類型に分類できる。

①投票型～この型に三種類ある。

a. 投票・討議型～審査員がいくつかの推薦作品を投票し、その結果に基づき、討議し、受賞作品を定める方法で、芸術祭賞、舞踊批評家協会賞などの決定がこれにあたる。

b. 投票・投票型～議論で相互に気まずくなることを避けるため、投票を審査員の過半数の支持を得るまで反復するもので、現代舞踊協会各種の賞に見られる。

c. 投票・三段階型～東京国際振付コンクール予選で行われたもので、通過させたい(α)、通過させたくない(β)、どちらでもよい(γ)と三段階を作り、審査員満票を取った α の候補者から優先順をつけるものである。

② 順位型～審査員が順位を付けるもので、

1950年代の東コン決選はこの方法で行っていた。

1位に得点の重しを付け16点、2位12点、3位10点とし、以下9組、1点まで点数を付け、その結果を集計した。

③ 点数型～この型は、2種類のベースがある。

a. 単純集計法～審査員の素点を、単純に集計、あるいは平均で表記するもので、60年代の東コンに見られた。

b. 偏差値法～審査員の素点を偏差値に変換して集計するもので、審査員の素点平均を50にし、標準偏差を10となるように、素点と平均値からの差を、素点の標準偏差で割り、50を加算したT-得点⁶⁾である。

c. 上記 a, b どちらかをベースにした4種の加工点法が見られる。

〈上下カット法〉～上記の集計総和から、当該作品に付与された審査員中の最高点と、最低点の控除法で、現在、主流である。

〈棄権～もらい点法〉～審査員が関係した作品や門下生作品を棄権し、当該作品について、他の審査員の平均点をもらう制度で、1990年以後の埼コンで行われている。

〈審査格差法〉～埼玉県舞踊協会審査員が、地元の利用関係があることから、5人で2人分の点数に制限したもので、埼玉固有のものである。

〈項目分割法〉～舞踊技術、振付、感情表現、音楽性、マナー、等の項目を採点し、素点を個別に集計するもので、舞踊作家協会等で、試みられたが、現在、普及していない。

2) 埼コンの問題

最初には、単純集計を行っていた埼コンも反省を踏まえ、1978年上下カット、1980年棄権～もらい点法を実現するようになった。しかし、棄権～もらい点法は、他の作品を低い点数にすることで、採点審査員関係者が有利になるなどの弊害が起こった。また、1989年から、参加作品が増加し、従来の方法、壁に表を貼り出し、一枚ずつの回りにそれぞれ電卓を持った係りが集計する方法は困難を究めた。発表を待つ出演者・観客が2時間も待った事例があった。

3) 偏差値導入に向けての推移

平均と標準偏差を揃えなくては、審査員が総て同量の権利を行使できない。平均や、分布につい

て事前に審査員で話し合いをしたが、結果的にそのような採点は実現できなかった。次に審査員素点を、偏差値に変換することが話し合われた。しかし、1985年には、まだまだ、パーソナルコンピュータが普及せず、電卓では手間取るので、偏差値は、見合わされていた。

(1) コンピュータの採用

1989年6月、筆者らは、まず、ラップトップ型コンピュータを使用し、埼コン理事会で出演抽選のデモンストレーションを行った。乱数により抽選を行い、印刷を含めて5分で仕上がった。前年度まで、6人の委員が、参加作品806を半日仕事で抽選していたので、コンピュータの作業能力は印象的だったと思われる。

1990年、計算部門を担当し、まず、単純集計上下カット、棄権～もらい点法、さらに、コンピュータの計算能力を前提として、審査格差法を求められた。

(2) 偏差値をめぐる議論

偏差値は、審査員全員の平均と標準偏差を均等にしているものである。多量な参加がある場合、舞踊界の中で採用された方法としては整合性がある。しかし、埼コン役員の反対意見も下記のように見られた。

①審査採点は絶対点・芸術点である。その素点に意味があるので、偏差値に変換することは、芸術的感性を無視することになる。

②単純集計の欠陥は、上下カット、棄権～もらい点法で是正されれば十分だ。素点そのものを尊重すべきである。

③もし審査の集計法が変わることで、従来の順位も変わるものであれば、過去の受賞者の権威は失墜してしまうのではないか。

(3) 説得の方法

このような意見に立ち向かうのは、論理的な理解ではなく、従来や過去をあまり敵対せず、受け入れてもらうことである。従って、偏差値を数学として説明するものは、最低限にとどめ、次の要領で理解を求めた。

①舞踊家は流行に敏感なので「算盤なら単純集計でも良いが、コンピュータの時代、入試でも、偏差値を使っている。舞踊界でも、偏差値集計ぐらい行なはなくては。」

②従来とあまり変わらないと安心させる戦略も必要で、「ただ、点数が細かくなるので、同点が

減少するから、予選の当落に担当者の主観が入らない。」

③最大のポイントは、単純集計上下カットの表1の実例を見てもらうことと、前述の棄権～もらい点の平均点を算出して、見てもらうことであった。

(4) 反対意見への反論

①審査採点は、結果的に順位を表現する。素点の含蓄性は、数的な数列に換算されるのである。従って、コンクールにおいては、素点は、相対的であり、その平均値が高いことが、質の高いコンクールであるとは言えない。

②平均・標準偏差が異なる数列の単純集計は、数学的にナンセンスである。上下カットもらい点は、本質的なものを是正しない。

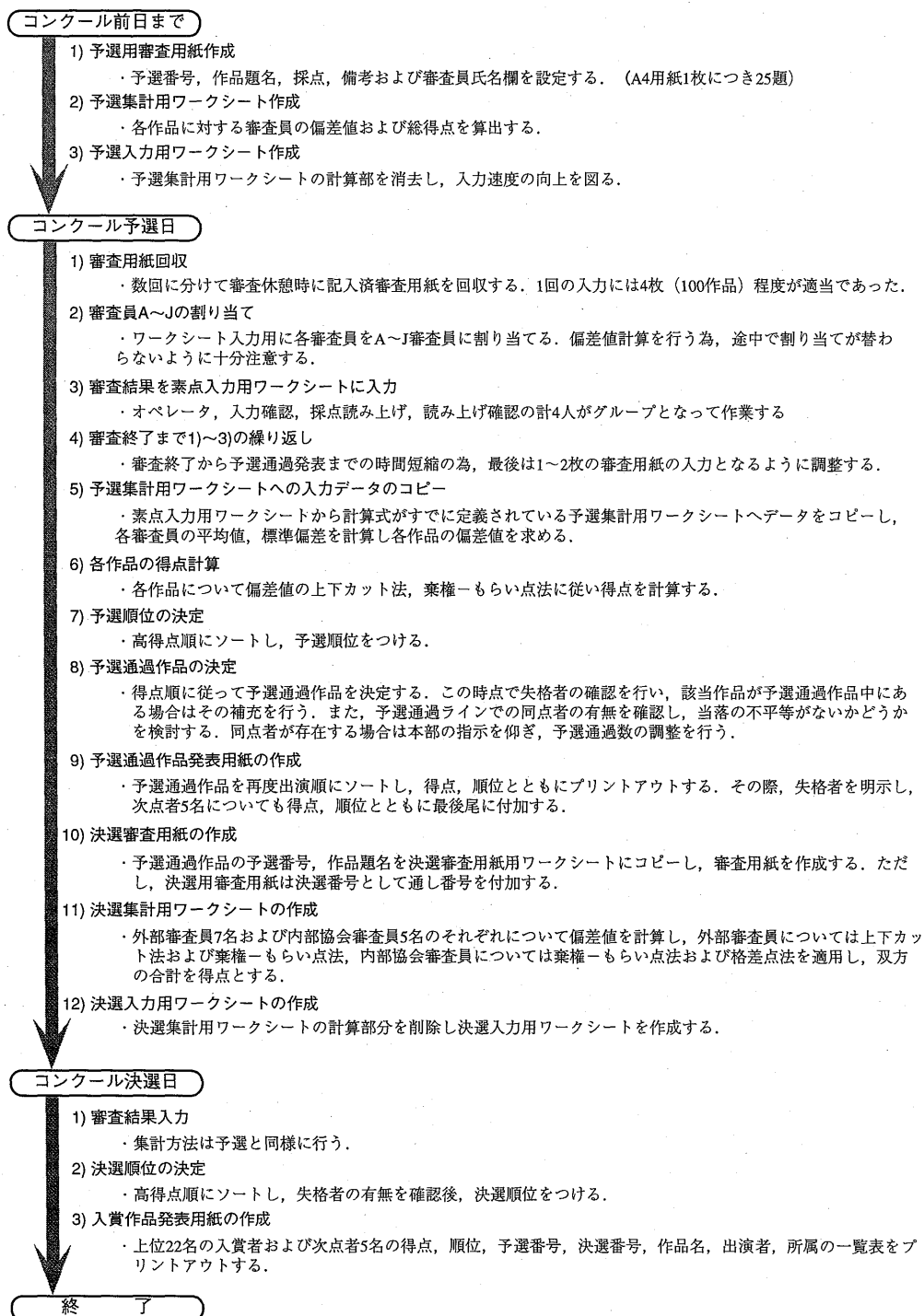
③時代に即応した方法で審査すべきで、審査は時代の審査なのであるから、過去の権威を否定しない。時代にあった、より精密な運用を心掛けるべきである。

2 偏差値集計の経費について

正確・迅速・能率は、特にコストと関連する。埼コンの経費は、国際創作舞踊コンクールの経費補充する現状となっている。

集計予算に関しては、まず、1955作品、予選決選で2500作品の集計作業を従来の作業経費から割出すと、壁に貼る大書表は12万円（1枚1200円×100枚）。計算処理アルバイトは60万円（100人×6千円）、審査用紙作成は3万円（100枚×300円）、原簿作成は4万円、順位結果発表用紙作成は6万円（12種類×5000円）、全体で85万円の経費が計上される。時間帯によっては、さらに弁当代も必要となる。しかも、實際上、これだけの計算集計を行う部屋は無い。更に、一週間にわたる人手を確保することは不可能に近い。一方、パーソナル・コンピュータのスプレッドシート型ソフトウェアに原簿を打ち込んであれば、順番抽選後の書き出し、審査用紙作成、大書計算表、順位発表の事務が、一貫して出来る。筆者らは、原簿作成4万円、審査フロッピー作成3万円、審査打ち込み36万円（24人×1万5千円）、チーフ料6万円、6日間の機材レンタル料8万円、雑費4万円で、61万円の総経費で発注した。これにより、約24万円の節約が出来るようになった。1995年を例にすると、埼コンは2千万円の収入、千百万円の支出で、収

Table 2 A process of compilation in the Saitama competition.



益となった。

3 採点集計方法の実際

1) 用具・ソフトウェアと操作する人

1990年、埼玉県舞踊協会員と筆者らの知り合いに声を掛け、無料または実費で借りられるパーソナル・コンピュータと打ち込みに経験のある人材を募集した。借りられた器具は、NEC 9801 LV, Apple社のPower Book 100と140そしてレンタルで、MacintoshのColor Classic II, 翌年からLC IIも加わった。プリンターは、Apple社、Style Writer, Laser Wind 1040 PS, CANONのDesk Writerを使用した。コピー機もCANONのFC330を借りた。

キー操作可能な人材は6人であった。6日間13

回の集計を調整し、1日約2部門を二人ずつ、四人で操作するスケジュールを立てた。ソフトウェアは、打ち込みを行う人に聞くと、大型コンピュータしか扱ったことのない一人をのぞいて、他は多少なりともスプレッドシート型のLotus 1-2-3かExcelに馴染んでいた。そこで、一番経験のあるA氏を中心に、習熟度に応じた組み合わせを創り、相互に打ち込めるようネットワーク(Local Talk)を組んだ。

2) 計算表の構成

スプレッドシート型のLotusやExcelはそれほど変わらない。ただ、空欄について、Lotusは、0とみなすので、コピー・ペースト時、列を詰める。どちらを使用するにも、関数を使用するのが

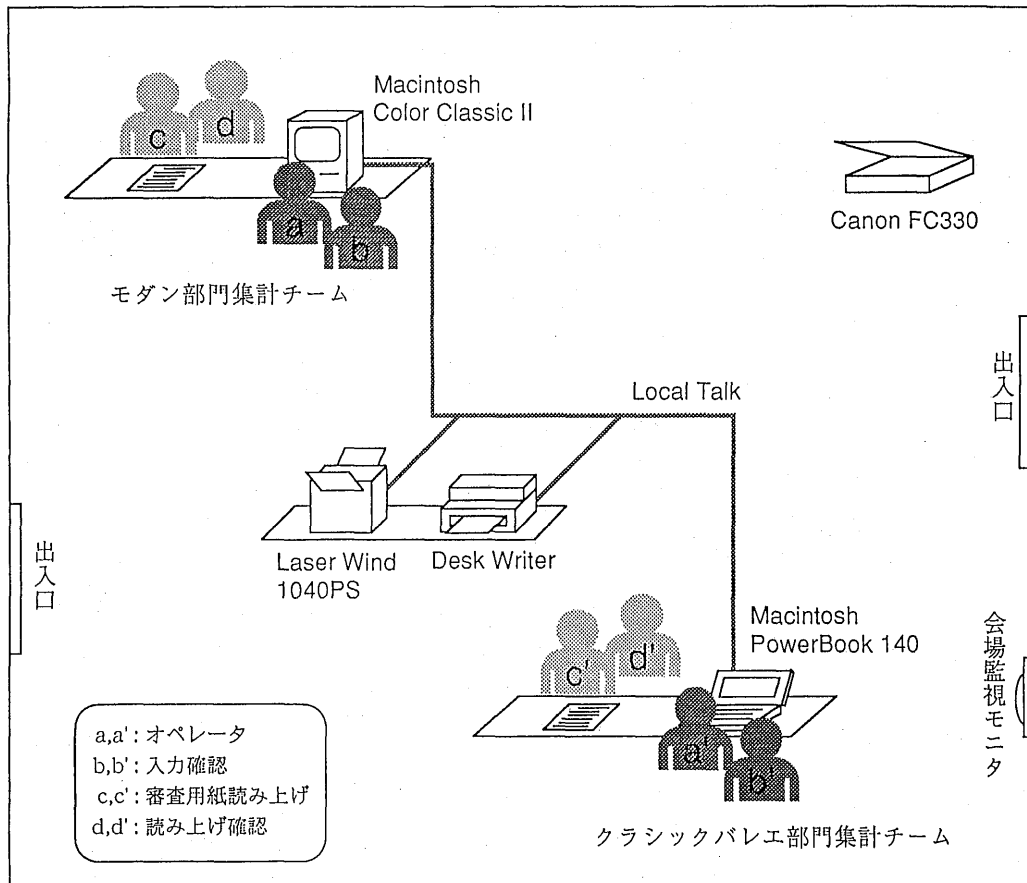


Figure 2 Disposition of machine parts and operators

便利である。

偏差値を求めるには、平均と標準偏差が必要だが、それは審査員が全作品を採点した後でなければ求められない。主要な関心は、早く結果が出せることである。試行錯誤の結果、事前にどこかのセルに数式を入力し、素点打ち込み後に、コピー・ペーストするのが早いことが分かった。

図3は、84人の予選例であるが、A5～A89は、決選順位、B5～F89は、原簿と同じものを置き、ついでにAG5～AJ89にB5～E89のコピーをペーストした。

計算は、G5～AE89までを使用し、素点はG5～R89まで、偏差値はS5～AD89に置き、AE5～AE89は、偏差値の加工点の集計とした。これは、S列からY列の総計から上下カット、Z列からAD列の審査格差点（二人分の得点）の加算点である。AEをAFにコピー・ペーストし、AF5～AJ89までを高得点順にSORTした。

G1からAD1まで、審査員記号、G2からR2

まで前述の5行～89行までの平均、G3からR3まで5行～89行までの標準偏差を出すソフトウェアの関数を入れておいた。

3) 関数

Excelの関数を使用するには、式・関数ペーストを開き、平均値、標準偏差をG2、G3に、下記のように打ち込んでおく^{注2)}。

=AVERAGE (G\$5 : G\$89)

=STDEV (G\$5 : G\$89)

次に、G2G3をR2R3までコピー・ペーストする。

4) 偏差値の計算式

S5は、次の数式で偏差値に変換する。Lotusが、ファイル・コピー時、空列を詰めるので、IF関数を使い、前行の式関数を出していた。しかし、Excelのみでは、下行に省略可能である^{注3)}。以下、AD89までコピー・ペーストする。

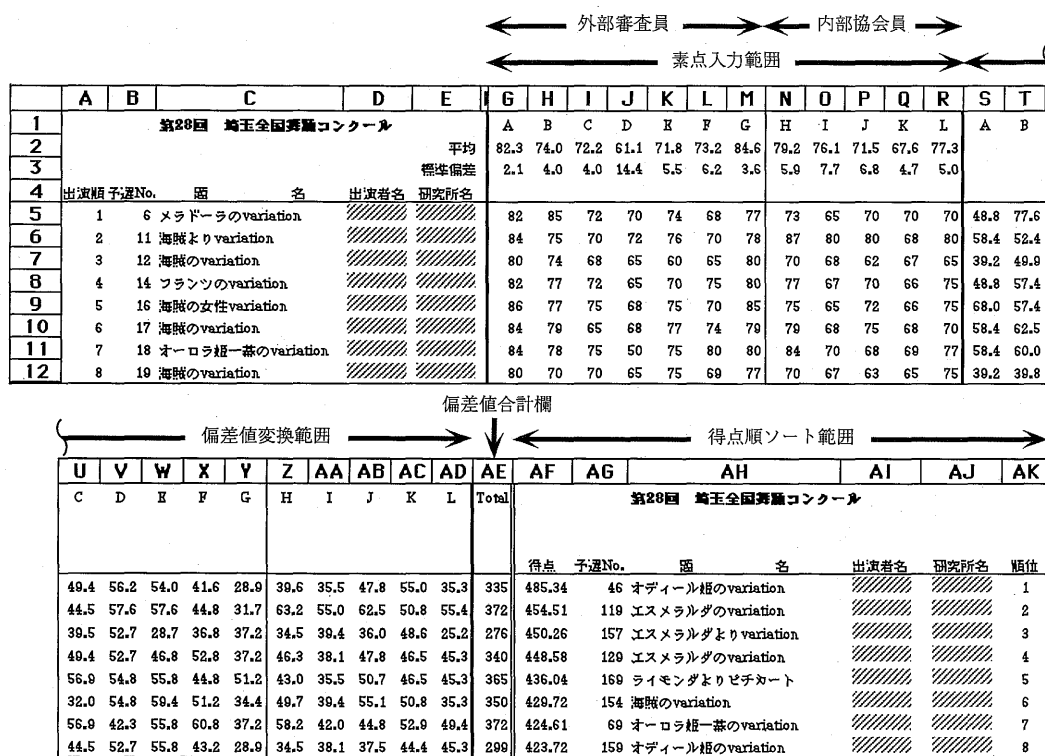


Figure 3 A sample worksheet from Saitama competition.

=IF (ISBLANK (G 5), " ABANDON", ((G 5 - \$G\$ 2) *10/\$G\$ 3) +50)
 = ((G 5 - \$G\$ 2) *10/\$G\$ 3) +50

5) 偏差値合計欄

AE 5 の集計式は、外部審査が S 5 から Y 5 ま
 で、内部審査・協会員が Z 5 から AD 5 となり、
 下記のように記載する^{注4)}。

=AVERAGE (S 5 : Y 5) * 7 - MAX (S 5 : Y 5)
 - MIN (S 5 : Y 5) + (AVERAGE (Z 5 : AD 5)
 * 2)

SUM でなく、AVERAGE としたのは、棄権し
 た場合、他の審査員の平均点をもらうからである。
 これで、上下カット、内部協会員を格差点、つま
 り 5 人で二人分の点数とした偏差値の加工点が求
 められたことになる。

6) 得点順ソート

AF 5 ~ AF 89 までに、AE の計算結果をペース
 トし、AF 5 ~ AJ 89 までを範囲指定、AF につい
 て降順 SORT を求め、AK 行に順位を打ち出す。
 これで、順位とともに、作品名、出演者名、舞踊
 団、そして採点が表記される。

4 今後の問題点

1) 偏差値集計の結果

偏差値集計と単純集計では順位が変わり、さら
 に、上下カット、破棄—もらい点、埼玉県審査
 員圧縮点などの加工点で、差異が生じることがあ
 る。95年、シニアの部のモダンダンス部では、集
 計法によって、それぞれ三つの作品が 1 位となる
 可能性があった (表 4 参照)。

単純集計では、4 位の「道なき地図」が素点、
 加工点集計、ともに 1 位、偏差値の総計では、3
 位の「デッサン」が 1 位、偏差値加工点で「微笑」
 が 1 位となった。計算法で 1 位が替わっているこ
 とが分かる。

「道なき地図」は、埼玉県の入賞経験者であり
 H 審査員の強い支持が見られ、「微笑」と「デッ
 サン」では、前者が 4 月の東コン優勝者であるこ
 とが、外部審査員の点数に反映しているのであろ
 う。

この偏差値の集計は、常識的で妥当なものとな
 る傾向を持つようである。審査公表で、舞踊評論
 家の山野博大氏が「偏差値によって、妥当な順位
 となった。」と述べた。この妥当性は、実感との
 関連で、次年度の参加作品に反映する。埼コンで

Table 3 A sample of the final ranking

Modern dance 1 section

得点	順位	賞名	決選No.	予選No.	題名	出演者名
462	1	第1位橘秋子賞 第1位県知事賞	84	162	微笑	湊 斐美子
455	2	第2位の1県議会議長賞	62	123	悲しい告白	佐藤綾子
453	3	第2位の2県教育長賞	71	140	デッサン	秦万美
451	4	第3位県文化団体連合会長賞	14	41	道なき地図	金田尚子
429	5	第3位県文化団体連合会長賞	76	147	舞極の砂丘	平多量子
426	6	第3位県文化団体連合会長賞	79	150	二重の影の対話	石井里香
426	7	テレビ埼玉賞	78	149	デイヴェルティメント	菊地久美子
419	8	東京新聞社賞	64	127	帰らぬ日	三宅冴子
418	9	毎日新聞社賞	1	4	血に染った十字架	丸岡有子
418	10	読売新聞賞	49	105	いつか見た青い空	石上洋子
417	11	朝日新聞社賞	35	79	海よ激しく眠れ	上田仁美
414	12	埼玉新聞賞	13	37	人形の家	平山素子

は、偏差値採用後、参加作品が増加している事実があるが、コンクールの妥当性が参加者・舞踊界に望まれていることも推定される。同年のバレエ・シニア部門でも、単純集計と偏差値では、3位が入れ替わっている。この偏差値使用で1位が変わったことは、この5年で初めてだが、より常識的で、舞踊界の一般世論に近づく傾向と言えるだろう。

2) 組織内オペレータの活用

コンピュータは普及したが、ハードウェア、ソフトウェアともに多様である。本稿では、スプレッドシート型の表計算ソフトウェアを使用したのが、手軽に持ち運べて、作業が素早く出来るものであれば、何でも良い。

それぞれの舞踊コンクールの組織で、現在、何らかのハードウェア、ソフトウェアを操作している人は、かなり存在する。国内で、年間75万台のパーソナル・コンピュータが、販売されている時

代に、少なくとも単純集計以外の偏差値を基盤とした計算、ないしは、より実状にあった計算が見られなくては、時代の整合性がないことになる。そして、そのような契機が、舞踊界をより合理的な構成に発展させる因となるものと思われる。

3) 偏差値を手直しする

点数公開を行う場合、T-得点の偏差値に変換した点数は、平均が50点、標準偏差が10なので、審査の素点より低くなる。順位という面では有効なのだが、10を掛けたT-得点より、14を掛けたG-得点も検討を要する。しかし、まだ、実際の点数とかけ離れる。偏差値に変換すると、一部作品は100点を越えることがあるが、下記の案も実感に近い。

$$= (G5 - \$G\$3) * 14 / \$G\$4 + \text{審査員全体平均}$$

4) 点数の公開

情報の公開は、舞踊界の合理化に必須である。

Table 4 The comparison between simple sum and deviation's

The modern dance senior section in the 95`Saiatam competition

審査員記号□□		A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L					
現代舞踊1部	AVERAGE	90	89	90	90	85	88	88	89	87	87	88	75	単純集計	偏差値集計			
	SD	4	6	8	4	5	3	5	5	5	4	5	7					
入賞 題	名 出演者名												総得点	加工	総得点	加工		
1	微笑	濱 斐美子	95	80	98	95	87	88	91	91	93	79	90	85	1072	632	776	462
2	悲しい告白	佐藤綾子	92	95	77	92	87	92	91	90	85	92	90	69	1052	625	756	455
3	デッサン	森万美	85	94	95	90	95	90	91	92	92	89	88	70	1071	633	781	453
4	道なき地囀	金田尚子	90	90	95	95	80	92	85	98	92	87	85	85	1074	635	777	451
5	舞極の砂丘	平多量子	93	90	95	90	75	85	92	89	80	84	95	70	1038	618	716	429
6	二重の影の対話	石井里香	95	80	98	85	85	86	93	88	89	85	85	73	1042	611	723	426
7	デイヴェルティメン	菊地久美子	93	89	92	85	88	84	94	92	90	85	80	70	1042	616	716	426
8	帰らぬ日	三宅冨子	88	98	72	85	88	89	89	80	83	85	88	70	1015	595	693	419
9	血に染った十字架	丸岡有子	83	88	85	90	83	88	80	90	85	90	95	70	1027	603	715	418
10	いつか見た青い空	石上洋子	93	77	87	83	88	88	86	87	90	90	90	75	1034	606	723	418
11	海よ激しく眠れ	上田仁美	90	89	96	92	80	82	78	90	90	87	90	89	1053	614	652	417
12	人形の家	平山素子	85	92	85	92	85	88	81	81	80	89	82	71	1011	591	639	414

A-G: 外部審査員, H-L: 埼玉審査員, 加工=外部審査員の平均点*7-最大値-最小値+埼玉審査員平均*2

偏差値集計は、別覧作成の集計結果を付記した。

この資料は、埼玉県舞踊協会の許諾の元に公開された

しかし、現実的に、二つの問題がある。400作品の公開となると数量的に、膨大であることと、審査のプライバシーの侵害である。総得点の公開は現在行われているが、後は、後日、入賞者に限る全資料の公開あるいは、求められた資料を送付するなどが可能である。ただ、ある費用が必要であろう。

審査員を記号化した審査公開は現在行われているが、棄権があるため、そのままではプライバシーが保護出来ない。まだ当分、審査員の氏名を記号化し、棄権したセルには、他の審査員平均を代入するなどの処理が現実的であろう。

Ⅲ 後記

多くの舞踊コンクールが、欠陥を持った審査採点法を行っている現実を、一刻も早く変革すべきであること、そして偏差値の採点方法は簡単で安価であることを述べた。将来的に、多くの審査会が、単純集計より優れた、偏差値集計あるいは、他の更に優れた方法を採用することを強く提言したい。

注記

- 1) 素舞台の経費を、一日平均、100万円に見積もっている。
- 2) AVERAGE は平均、\$ は絶対セル指定。STDEV は、母集団の標準偏差推定。予選決選で、参加数が400から50程度までの差が起こるので、埼コンでは統一的にSTDEVを使用した。
- 3) IF は、関数。括弧内、初出は、条件。ISBLANK は IS BLANK。“” 文字記号の表示、* は×、/ は÷。
- 4) MAX は最大値、MIN は最小値。

引用参考文献

1. 福井恵子 (1995) : 舞踊家の活動実態. 文化経済学会予稿集1995 : 156-159.
2. 郡司正勝 (1971) : 肉体と象徴について. 舞踊学10 : 2.
3. 伊藤百合子 (1992) : 舞踊界 5 大ニュース. 音楽舞踊新聞1.1 : 7.
4. 伊藤百合子 (1995) : 総数1855曲の激戦. 音楽舞踊新聞 8. 11 : 5.
5. 夏目十郎・伊藤修・藤田龍次郎・宮川淳二・馬越元・熊谷久美子 (1994) : 全国舞踊コンクール50年史, 東京新聞, pp. 128-134.
6. 大石三四郎・松浦義行 (1980) : 統計解析学 (1), 逍遥書院, 東京, pp. 122-123.
7. Schmidt, J (1995) : Mimicry or colonialism. Ballett international 18-9 : p. 14.
8. 若松美黄・東原芳美 (1993) : 現代日本は「舞踊の時代」かー統計による舞踊家と舞踊公演・筑波大学運動学研究 9 : 25-26.
9. 若松美黄 (1984) : ダンスにおける出の研究ー舞台両袖の比較. 筑波大学運動学研究 1 : 111-120.
10. 若松美黄 (1987) : 出と美的姿態の研究. 筑波大学体育科学系紀要12 : 79-90.
11. 若松美黄 (1995) : データーを読む. 季刊文化経済学会10 : 10-11.
12. 頭川昭子・松浦義行・若松美黄 (1992) : 国際創作舞踊コンクールにおける入賞作品の一傾向. 筑波大学体育科学紀要13 : 91-99.
13. 頭川昭子・林裕子・松浦義行・若松美黄・和田伊通子 (1990) : 国際創作舞踊コンクールにおける入賞作品のイメージ分析. 筑波大学体育科学紀要15 : 81-91.